

雄武町

戸田 友樹

1.雄武町の歴史と概要

1.1 名前の由来

雄武という地名の語源は、アイヌ語の「オムイ」(河口が塞がる) に由来する。雄武川の河口は、嵐の時には、川から流れ出る水よりも、海から打ち寄せる波のほうが強く、河口が塞がってしまうため、このような名称がついたと言われている。

図 1 雄武町の位置



1.2 歴史

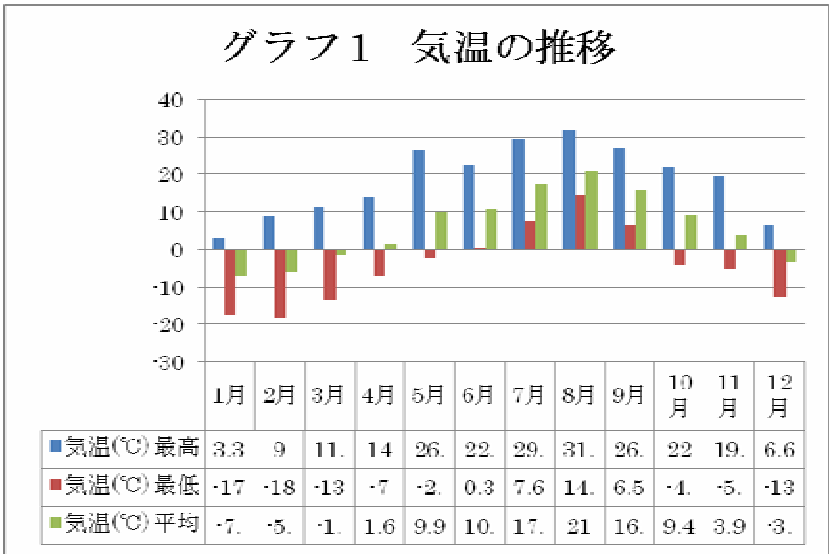
雄武周辺への和人の入植は、江戸時代末期に開かれた宗谷場所が拡大し、雄武周辺にも番屋が建てられたところから始まった。明治 5 年 (1872 年) には紋別郡 10 ケ村のひとつとして雄武・沢木・幌内の 3 村が誕生した。以後、新漁場として開発された雄武地区に人口が急増し、明治 33 年 (1900 年) には紋別村より分村して雄武外 3 ケ村戸村役場が設置された。大正 4 年 (1915 年) に沢木村・幌内村を合併して 2 級町村制が敷かれた後、昭和 23 年 (1948 年) に現在の町制が施行され、今に至った。

出典 ウィキペディア HP

1.3 雄武町の位置・気候

雄武町は、北海道の東北部の網走支庁管内最北端に位置し、東西 40km、南北 24km、面積は、東京都特別区 (23 区) の合計 (621.42 平方 km) よりも広い 637.06 平方 km を有している。鮮やかなコバルトブルーのオホーツク海に臨む海岸線が 35km に及び、海岸から南西に伸びる大地には緑輝く牧草地が一面に広がり、その背後には原生林が残る秘境ピヤシリ山をはじめ

グラフ 1 気温の推移



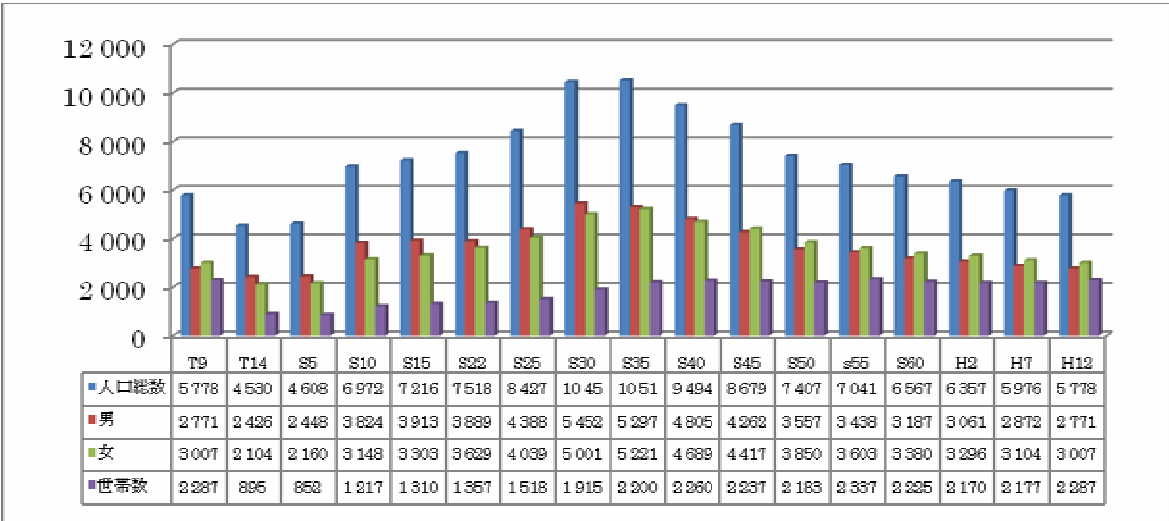
出典：平成 18 年 網走地方気象台

とする山系が連なっている。これらの自然は四季折々に様々な表情を見せ、特に 1 月下旬から 3 月にかけては流氷が接岸し、海岸線一帯が白い大地へと変化する光景は、オホーツクの厳しさとロマンを感じさせる。

1.4 雄武町の年間気候

30 度をこえるのは 8 月の一度であり、冬はマイナス 10 度を越える。日本の平均と比べ寒冷な地域であることが言える。しかし、旭川市ほど寒くなることはなく、過ごしやすい地域であるといえる。

1.5 雄武町の人口・世帯数の推移



出典 雄武町 HP

大正 9 年から昭和 30 年にかけては人口が増加を続けていたといえる、しかし近年の人口の減少からいっても過疎化が進んでいることは否めないだろう。これから一番多かった昭和 30 年ほどに人口を増やす事は難しいだろう。

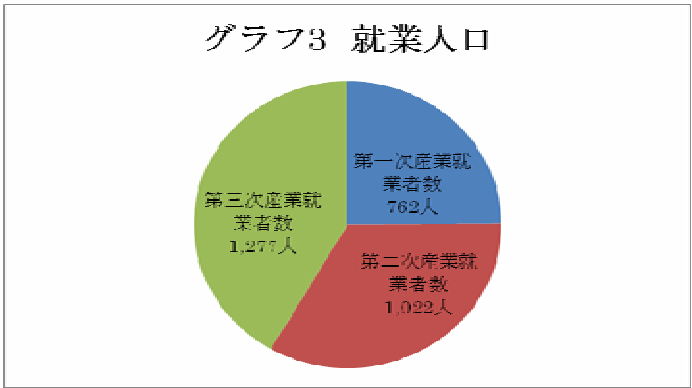
2. 雄武町の産業

2.1 雄武町の就業人口と世帯数

一次産業に携わる人口は少なく、中でも農家は特に少ないことがわかる。少ない一時産業の中でも雄武町は林業や漁業に力を入れているということがグラフ 4 からわかる。

2.2 雄武町の漁業

雄武町の漁業は、冬期間が流氷に閉ざされるという厳しい自然環境の中で行われている

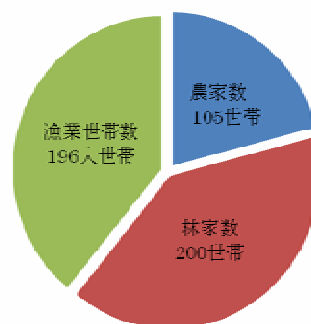


が、メジカで有名なサケ・マス漁をはじめ、毛ガニ、ホタテ、ウニ、コンブ、タコ、カレイなど、全国に知られるオホーツクの旬の味覚の発信基地として、重要な役割を担っている。町内には、沢木、雄武、元稲府（もといねっぷ）、幌内の4つの漁港がある。また関連する水産加工業は、まちの経済発展に欠かせないものとなっている。さらに「獲る漁業」から「育てる漁業」への転換を目指し、大規模増殖開発事業など積極的な施策の展開と関係者の協力によって着実に発展している

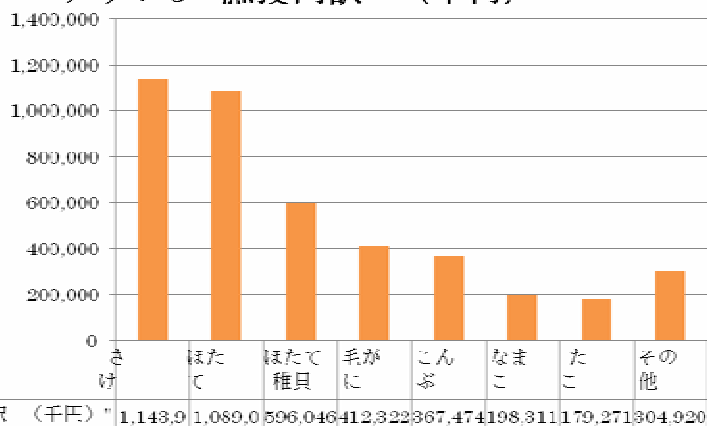
漁家数 196 戸のうちで漁船数を 370 隻有している。一戸あたり二隻ほど船を有して漁業を行っている。漁獲数は 16120t であり、漁獲額は 42 億円にも達する。ほかの産業と比べても漁業はかなり盛んである。

中でも、さけ、ほたての漁獲数がおおく、漁獲数のおよそ半分を占めている。また、獲る漁業から育てる漁業に転換してこれほど獲れているのだから、もともとどれほど多く獲れるのかが想像に難くない。それほど漁業に力を入れている。

グラフ4 第一次産業人口



グラフ5 漁獲内訳 (千円)



2.3 雄武町の農業

雄武町の農業は、寒冷な気象条件と広大な土地資源を活かすことのできる酪農（牛乳生産）と肉用牛生産を中心に営まれている。放牧に加え、近代的な牛舎、施設を活用した飼育方法、飼料や牛乳の成分分析を取り入れ、安全な牛乳と健康な肉牛の生産のために日夜努力を重ねている。また、広々とした緑の大地は農業生産の発展により維持されている。

牛の数が多く、世帯数以上に牛がいる。農家数 105 戸のうち 76 戸の農家が搾乳をしていて、ほとんどの農家が牛を飼っていると言っても過言ではない。また、生乳生産額は 35,853t にものぼり、生乳生産額は 25 億 2117 万円にも達する。

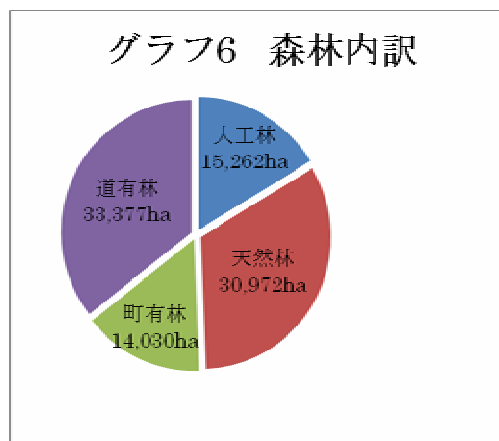
2.4.1 雄武町の林業

雄武町の林業は、トドマツ、カラマツを主体とした道北有数の森林資源に恵まれ、古くから町の基幹産業の一翼を担ってきた。本町の森林面積は 47,405ha と総面積の 74.4%を占めている。このうち約 1/3 が人工林で、これらの適切な保育が必要な時期にあるが、日本の

林業を取り巻く厳しい情勢は、本町においても同様である。このことから、効率的な森林施業のみならず、森林のもつ「豊かできれいな水と空気を育む多面的な機能」を重視し、町ではこれらに応じた計画的な森林整備を進めている。

2.4.2 雄武町の林

道有林や町友林だけでなく、天然林が三分の一ほど占めていて天然林の多さがうかがえる。

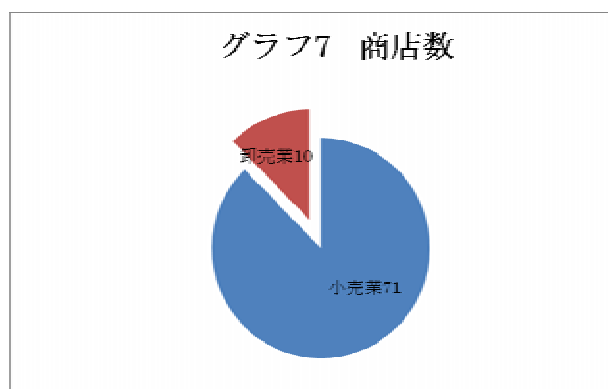


2.5.1 雄武町の商業

雄武町では、住民の生活水準向上やニーズの多様化などの消費構造の変化に対応するため、商店街活性化の取り組みをしてきた。そうした中で、大通り商店街の近代化事業と市街地の国道拡幅事業が実施され、商店街の機能と街並みが大きく変化した。地域実情に応じたきめ細かなサービスを生かした、活力のある商店街形成が始まっている。

2.5.2 雄武町の商業データ

年間販売額は 124 億 5,355 万円に達する。全体の 9 割ほどが小売業である。商店数自体少なめであるが、特に卸売店は 10 店舗ほどしかない。

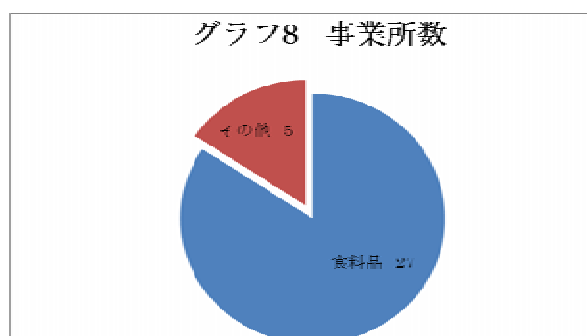


2.6.1 雄武町の工業

雄武町の工業は、第一次産業と関連した「地場資源・地方資源」活用型工業で、これらの生産物を資源とした、水産・食料品加工製造業や木材・木製品製造業などが中心となっている。また、高次加工品・特産品開発にも力を注ぎ、地域内の資源を見直すなど、消費者ニーズにあった研究を進めながら、地域経済の発展に努めている。

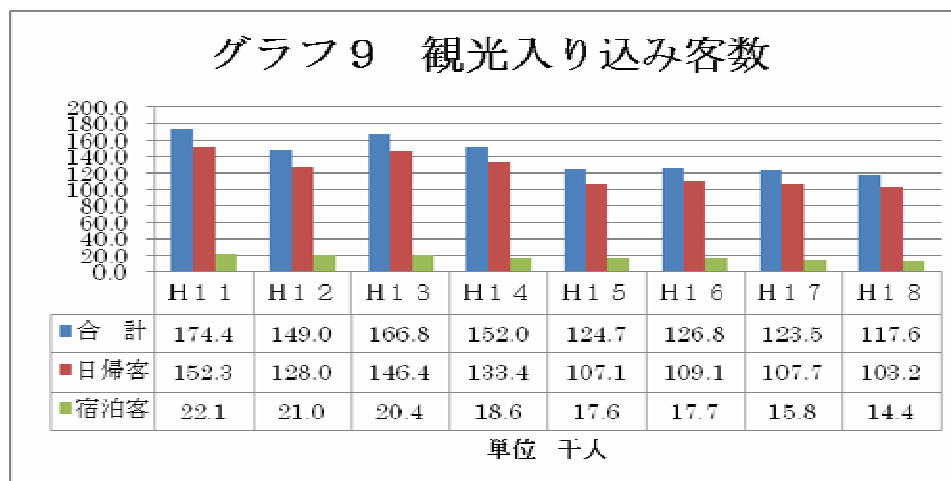
2.6.2 雄武町の工業データ

事業所は食料品が主であり、それ以外は 5 つほどしかない。少ない事業所数ながらも年間出荷額は 163 億 4,571 万円にも達している。総じてみて店舗、事業所ともに多くはなく 2 次産業も活発だと言えないことがわかる。



3. 雄武町の観光

3.1 観光入り込み客数



各列は各年度（４月～翌３月）データ

グラフ 9 より観光客は近年減少傾向にあることがわかる。また、観光客の主は宿泊で無く日帰り客であり、長期で滞在する観光客はごくわずかであると考えられる。宿泊客の減少が少ないことから特定の常連客がいることが考えられる。

3.2 雄武町の名所

3.2.1 日の出岬

沢木地区にある日の出岬には、ホテル日の出岬がある。岬には総ガラス張りの展望室「ラ・ルーナ」や広々としたキャンプ場があり、バンガロー、遊具設備も整備されている。

図 2 日の出岬



出典：雄武町 HP

3.2.2 風の丘

小高い丘にある公園には四季折々の花々が咲き乱れます。ここはオホーツク海を眺める自然の展望台である。冬にはスキー場に変身する。

図 3 風の丘公園



出典：雄武町 HP

3.2.3 道の駅「おうむ」

雄武町市街の中心部にあり、ビルの 7F に相当する高さにある展望台が訪れる人々をナビゲートしてくれる。遠くからも目立つ建物なので、雄武町に来たらまずはここに立ち寄り、展望台から自分の目で雄武町

のロケーションを確認すると良い。

3.2.4 雄武町産業観光まつり

産業観光まつりは、雄武町の夏の訪れを感じさせる一大ビッグイベントである。当日は雄武町を代表するメジカ・毛ガニなど盛りだくさんの特産品の特売が行われ、雄武町のみならず周りの市町村からも多くの観光客が訪れる。

参考 HP

- ・雄武町 HP：<http://www.town.oumu.hokkaido.jp/>
- ・ウィキペディア：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%9B%84%E6%AD%A6%E7%94%BA>

図 4 道の駅おうむ



出典：雄武町 HP